

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを示したうえで、運動量の確保を意識して授業を実施できた。
- ・動画や模範演技を行い、運動の正しい動きを指導したり、掲示したりすることで技能のポイントを理解させ、体の動きを調整させる力を高めることができた。
- ・運動が苦手な児童が取り組みやすいように、準備運動や補助運動の内容を簡単な動きで構成されるものに工夫することができた。

(2) 課題

- ・タブレットを使用すると運動量が減ってしまうため、運動量の確保と、タブレットの利用のバランスを考えて使用していくこと。
- ・カードではめあてに正対した振り返りが書ける児童が少なかった。めあての例を示したり、振り返りの観点を明確にしたりする指導を継続すること。
- ・ゲーム型の運動では勝敗や相手の行動に児童の関心が高まってしまった。自分達のチームワークを高めたり、自分の技術を向上させたりできるよう粘り強く指導すること。

2 分析（観点別）

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・どの領域の学習活動も素直に取り組むことができる。 ・体幹、腕や足の筋力が十分でない児童がいる。 ・気を付けの姿勢、50m走でまっすぐに走ることなど、基礎的・基本的な技能の指導の継続が課題である。	・めあてカードを提示すると、めあてを具体的に捉え頑張ることができる児童が多い。 ・運動の工夫（しっぽ取りで、どのように動けば取りやすかったり取られづらかったりするのかなど）を自発的に考えることが難しい。	・身体を動かすことが好きな児童が多い。 ・縄跳びやマラソンなど学校の取組に意欲的に取り組む児童が多い。 ・幼年からの経験不足が原因で、ボールや水泳などに、怖がって取り組めない児童がいる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ボールを操作する運動に普段から取り組んでいる児童が多く、ゴール型ゲームの技能が高い児童が多い。 ・鉄棒、マット、固定遊具を使った運動の技能に課題がある児童が多い。	・運動するときのポイントに気付き、友達に伝えられる児童がいる一方で、自分の動きを振り返ることが難しい児童も多い。 ・友達と教え合うことができる。 ・自分でめあてを決めることが難しい児童がいる。	・友達と協力しながら用具の準備・片付け、活動に意欲的に取り組むことができる。 ・うまくできなかった学習に対して、自主的に課外で練習することが難しい。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意識して運動量を確保することで、全ての児童が活動することができている。 ・領域によって、器械運動やボール運動については、個人差が大きい。	・ICT 機器を活用して自分の運動している姿を客観視することで、自己の課題に気付けた児童が多かった。 ・学習カードでは、めあてに正対した振り返りを書こうとする意識が高まった。一方で具体的に書ける児童は少ない。	・課題に対してすすんで取り組む児童が多い一方で、運動の楽しさを味わうことができず、学習への意欲を味わえない児童もいる。 ・うまくできなかった学習に対して、自主的に課外で練習することが難しい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・準備運動などで、体幹の強化につながる運動遊びを取り入れる。 ・身に付けさせたい動きを教師が明確にしたうえで、その動きにつながる運動遊びを取り入れる。 ・いろいろな動きを一回の授業内で行えるように計画し、運動経験を増やす。	・めあてカード等を活用し、自分の課題や到達すべき目標を可視化して提示できるようにする。 ・お互いの運動を見合う時間では、友達の動きのどの部分を見るとよいか伝える。 ・友達のよい所を発表させる。	・児童が意欲的に取り組める導入や場の設定を行う。 ・マラソン月間や学習カードの工夫をすることで、運動の日常化を図る。 ・運動経験が少ない児童も怖がらずに取り組めるよう、スモールステップで活動に取り組ませる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・休み時間も使える学習カードを工夫して、技能の向上を図る。 ・運動の正しい動きを例示したり、掲示したりすることで技能のポイントを理解できるようにする。 ・ゲームのルール、基本となる動きや知識を単元の前半で重点的に指導することで、後半の発展的な運動やゲームがスムーズに行えるようにする。	・授業のめあてや工夫したポイントなどを考えたり、書いたりする時には、観点や具体例を示したりすることで、教科のねらいに沿った思考、表現力を伸ばしていくようにする。 ・友達と教え合う活動を取り入れる。 ・良い例とそうでない例を提示することで、2つの例を比べて動き方のよさや運動するときのポイントを考えることができるようにする。	・運動が苦手な児童が取り組みやすいように、準備運動や補助運動の内容を簡単な動きで構成されるものに工夫する。 ・準備や片付け、活動中での協力する姿を大いに賞賛して価値付けする。 ・運動中にも積極的に肯定的な励ましや助言を行うことで、主体的に活動に取り組めるようにする。 ・マラソン月間や学習カードの工夫をすることで、運動の日常化を図る。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・休み時間も使える学習カードを工夫して、技能の向上を図る。 ・運動の正しい動きを例示したり、掲示したりすることで技能のポイントを理解できるようにする。 ・ゲームのルール、基本となる動きや知識を単元の前半で重点的に指導することで、後半の発展的な運動やゲームがスムーズに行えるようにする。	・学習カードやICTを活用し、チームの特徴に応じた作戦や、それぞれの運動のよりよい動きについて考えられるようにする。 ・課題の達成を意識させるために、ルールを工夫したり、自分に合った場や練習方法を選んだりできる場面を設定する。 ・児童同士で見合ったり、教え合ったりする活動を取り入れ、体の使い方について考えられるようにする。	・運動が苦手な児童が取り組みやすいように、準備運動や補助運動の内容を簡単な動きで構成されるものに工夫する。 ・準備や片付け、活動中での協力する姿を大いに賞賛して価値付けする。 ・運動中にも積極的に肯定的な励ましや助言を行うことで、主体的に活動に取り組めるようにする。 ・マラソン月間や学習カードの工夫をすることで、運動の日常化を図る。